



海外生活 エッセー

ニューヨーク事務所

ニューヨーク市にしながら世界旅行？！

(一財)自治体国際化協会ニューヨーク事務所 所長補佐 柏井 孝太郎 (島根県松江市派遣)

米国はさまざまな人種や文化が共存する国です。中でもニューヨーク市には、中華街や韓国人街のほかに、日本では見かけないイタリア人街やギリシャ人街、インド人街、ロシア人街などが存在し、まるで異国に来ているかと錯覚させるような街並みやコミュニティに出会うことができます。今回は、その中でも異国情緒溢れるイタリア人街およびロシア人街について紹介したいと思います。

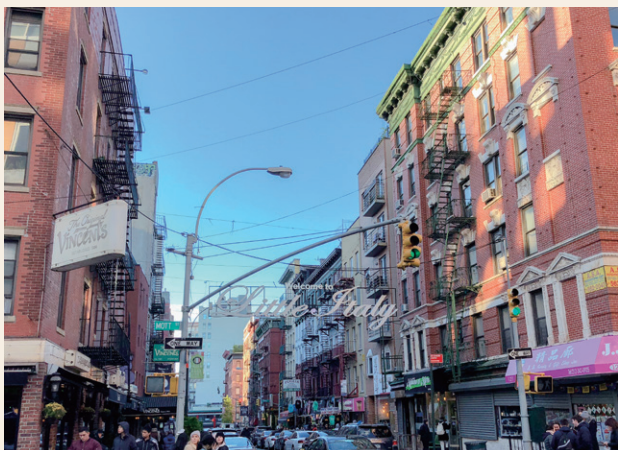
→一世紀以上の歴史を持つ「リトルイタリー」

「リトルイタリー」は、ロウアー・マンハッタンに位置するイタリア人街です。1800年代後半、多くの若いイタリア人男性がヨーロッパにいる家族を養うために渡米しました。1860年から1880年の間にニューヨークに移り住んだイタリア人は少なくとも6万8,000人いると言われ、その多くが「リトルイタリー」周辺に移り住み、それが現在まで続くイタリア人街の基礎となりました。隣接する中華街の拡大などにより規模が縮小しているとされていますが、現在においてもイタリア食材店、カフェ、レストランが立ち並びイタリアらしい雰囲気が

溢れています。また、毎年9月にはナポリの守護聖人の名を冠した「サン・ジェナーロ祭」が11日間にわたって開催されます。期間中は縁日のように通り沿いにさまざまな露店が並び、カトリック教徒の行進やコンサート、シチリアのお菓子「カノーリ」の早食い大会といったさまざまな催しが行われます。

→キリル文字が溢れる街「リトルオデッサ」

ブルックリンの最南端にあるブライトンビーチには、黒海のリゾートとして知られる街オデッサにちなんで名付けられた「リトルオデッサ」というロシア人街があります。同地には、第二次世界大戦時および大戦後、ロシア人が移り住んだだけでなく、1970年代に旧ソ連の移民政策の緩和と共に、ウクライナから数千人が移り住み、街を形成しました。商店には東欧でよく食べられているピロシキなどの惣菜が売られ、土産屋の商品棚にはたくさんのマトリョーシカが並んでいます。また、街中ではキリル文字が標記された看板や広告などが多く見られ、劇場ではロシア語の公演が催されるなど、住民たちの生活に今なおロシアの文化が息づいている様子が見て取れます。



「リトルイタリー」の入り口



街中ではいたる所にキリル文字が見られます